

■調査予定

現在、4月14日地震派生から約4ヶ月となり、地震初期の緊急支援の事態は収束しつつあるが、益城町、南阿蘇西原村等では面的にかなりの被害を受けているため、その復興にはまだまだ時間を要する状況であるが、その他の地域では落ち着きを取り戻しており、子どもたちの生活も日常に戻りつつある。被災者の生活環境の状況としては、現在は、避難所から仮設住宅へ引越を行う移行期を迎えており、被災市町村では熊本県が主体(熊本市は別)となり仮設住宅の建設がすすんでおり、全体で、80箇所以上の団地が予定されている。よって、その移行が本格化すると、被災した子どもたちの生活環境も、また、大きく変化することが予想され、その状況へのケアも重要と考える。

そのような状況化、今回のこども環境学会としての、保育園、幼稚園等への支援のための3次調査として、県内で最も多くの地域が壊滅的被害を受けたとされている益城町に地域を絞り、その中でも、2次調査の熊本県健康福祉部子ども・障がい福祉局子ども未来課との意見交換で、被害状況が厳しいと予想されている5園に絞ってヒヤリングと現地踏査を行った。そして、特に、最も被害の大きかった第五保育所からは、仮設園舎周囲の環境改善について、第二幼稚園については園庭について、具体的なアドバイスをすることができ、それについては更に図面化をして提供する予定にしている。また、それに加えて、KASEI(建築学生仮設住宅環境改善支援)での支援活動も兼ねて、益城町にある7箇所の応急仮設住宅団地を視察し、その中でも、安永団地については、町と住民との自治会・復興計画説明会に立ち会った。また、飯野小、馬水では、仮設団地への歩行者動線についてアドバイスを求められ、調査検討と回答を提案した。あと、当初、11日に予定していた、益城町の明日を子どもたちが話し合うセーブ・ザ・チルドレンジャパン主催のワークショップに関しては、2ヶ

8月9日

	内容	場所	住所	電話	受入先	参加・同行
13:00 ~ 13:45	■益城町子ども未来課 意見交換	益城町役場	上益城郡益城町宮園708-1(益城町中央公民館)	096-286-3117	益城町子ども未来課坂本課長	佐久間
こども環境学会の支援活動について説明し、最終的に保育の充実のためのアドバイス集を再生配布することを伝える。町としても復興支援しているが手が回らない部分もあるので、学会としての支援は歓迎したい。						
14:00 ~ 15:00	■益城町第1保育所 意見交換	園長室	上益城郡益城町福富651	096-286-4350	早田園長、岡村保育士、外村第二園長	佐久間
保育園周囲は多くの家屋が、全壊か、大規模半壊で、瓦礫のような景観が多く、そのような環境で開園していることに驚いた。幸いなことに、園舎には被害が少なく、震災前と比較して熊本市に越した2家族以外ほぼ90%以上の園児が戻ってきており、園児や親御さんたちにとっては、保育園がひとつの安全で平和な世界で重要な環境になっていると感じた。保育における遊びアドバイスブックは歓迎してくれるが、緊急必要度は少ない感じを受けた。一番の課題は敷地周囲の建物がほぼ全壊で危険なため、早く、解体撤去しないと、園庭の敷地外周部分の遊具や庭が使えない状態であり、園庭が狭まっていること。解体がうまくいっても、そこに建てるフェンスを工夫しないと、まわりの被害の風景を子どもたちに見せ続けることになるので、その境界フェンスのあり方に課題を感じた。それ以外では給水が不十分でプール活動が十分できないこと、トイレが一部使えないこと。周囲の仮設保護フェンスにより、園庭がかなり狭くなっており、運動会この中で実施するための検討を今後していくとのことであった。待機児童は少なくないということ、特に0-1才の需要があるが施設が足りないとのことであった。						
15:15 ~ 16:00	■益城町空港保育園 意見交換	園長室	上益城郡益城町安永1213-2	096-289-1111	平城園長	佐久間
新築1年目で被災したが、園庭、園舎ともほぼ被害がなかったため、被災当初は、園児の無事を確認することに全力をつくし、2日後には全員の無事を確認。その後、多くの子どもたちや親御さんを受入れると共に、4月後半までは常に園を開けておき、誰でもきて相談できる体制とし、心身の避難所のような役割を果たしていた。5月連休中は預かり保育も行い、連休後には通常の生活リズムに戻す保育を心がけた。当初は地震という言葉を使わないように注意していた。保育における遊びアドバイスブックについて説明すると、前園と同様に、歓迎するが、その要望度はあまり多くないと感じた。それよりも、課題は親御さんの方であり、震災後、日々のストレスでとても疲れているお母さん方をリフレッシュ、開放するイベントの工夫が必要とのこと。また出産前後の人たちへの子育て支援、ケアも重要とのこと。隣接する益城町安永応急仮設団地から通っている子どもさんも数名いらっしゃるということで、今後は仮設住宅との交流も可能性があれば検討したいということだった。						
16:30 ~ 17:30	■益城町第2幼稚園 意見交換	園長室	上益城郡益城町惣領1471	096-286-2055	福永園長	佐久間
自由保育を実践しており、如何に子どもたちを遊べるかという点を重視している。よって、保育における遊びアドバイスブックについては歓迎してくれているように感じた。震災当初は、余震が多く、当初はブランコや固定遊具は危険と感じ、使わせないようにして、砂場や三輪車のみで遊ばせていた。地震被害としてはリズム室(ホール)の床が傷んだことと、中庭テラスが若干沈下していること、WCの給水に問題があること等。それ以外に、園庭の一部を改修したいとのこと、現地で遊具配置等のアドバイスを支援した。親ももストレスが激しかったので思い切り遊ばせることは重要と考えている。また、園が再開後、母親が仮設住宅等の生活空間で孤独になり、鬱になる事例も多いため、バザー等で参加させるようにしている。また、夏休みでも就労している母親のために、預かり保育を実施している。また、夏休み中、午前は園庭を開放し、毎週水曜日は図書貸出をしてあげている。大きな被害をうけた地元地域にとって被災を免れた幼稚園や保育園は、周囲の町に暮らす人々にとって、貴重なまちの居場所であり、その意味では、幼稚園としての震災前の機能を100とする。震災後は、120%の機能の充実により周辺のまちにちに対して役割を担うことが求められているとの園長のお話であった。東日本大震災後の復興支援で、学校が復興再建において地域住民の重要な居場所であることを強く感じたが、今回は、保育園や幼稚園も、子育て世代の方たちにとって重要な地域の居場所であることを感じた。その意味で、保育園、幼稚園の再生は、地域の再生に直結しているように感じた。						
18:00 ~ 20:30	■益城町復興課・連携組織(益城町安永仮設団地周辺) 意見交換2	仮設団地周辺	上益城郡益城町安永1213-1	096-286-3210	益城町(町長、復興課松本課長他)、熊本大学COC(地域創生支援事業)円山准教授他	佐久間

益城町安永応急仮設団地の復興計画基本方針説明会の初会合に参加した。住戸70戸の内、半分以上の世帯主が参加。最初に町から町長挨拶、復興計画概要の説明と質疑。参加世帯全員の自己紹介。自治会規約の説明と、自治会長、談話室管理者等の役員の推薦、決定。また、このあと、熊本大学COC(地域創生支援事業)や、KASEI(熊本建築学生仮設住宅環境改善支援)についての説明が町から住民にあった。益城町の仮設住宅では、各仮設団地の開所にあたる復興計画説明会と談話室(みんなの家)鍵引渡式を必ず実施しており、その際は町長も挨拶しているとのことだった。また、益城町では復興計画に熊大COC(円山准教授が責任者)が、連携組織として加わっており、今後の復興計画と災害公営住宅計画・建設等についての要望や意見聴取も、熊大COCが全面的に行っていくということだった。団地内の中学生以下の子どもたちの数は10人前後と推察。若い世帯もいらっしゃるが、1割程度と推察され、やはり、仮設住宅は高齢者世帯が多い印象もあった。ただ、少ない子どもたちの環境支援をどうしていくかは重要であり、スペースが少ないなか、隣地の空港保育園との連携支援等も、今後、検討していきたいと感じた。談話室であるみんなの家がさほど、広い訳でないし、各仮設住戸も狭いので、あそびのアドバイスブックには、仮設住宅の環境にも配慮した工夫をすることができれば、子どもがいる世帯に配布すると意味があるかもしれない。また、このアドバイスブックに沿った、仮設住宅環境改善をKASEIでも実施できると良いのではないかと考え、今後、検討していきたい。

○熊本市内泊

8月10日

9:30 ~ 10:30 ■益城町第5保育所 意見交換 全壊(仮:益城 上益城郡益城町福原1043(益城町 096-286-2263 檜木野園長 佐久間.今井
中央小学校 寺迫1142) 080-1737-4873

益城町の幼稚園・保育園の中でも最も被害が大きく、閉園して、益城町立中央小学校の空き教室を間借りして保育を行っている。また、現在は、益城町交流情報センターの隣地に仮設の園舎を9月オープン予定で建設中であり、その現場も見せていただいた。 近く山際の盛土地であったため、最も被害が大きく、現在、旧園舎は使えず、別の場所に仮設の園舎を建設中。保育自体は 実施。あそびのアドバイスブックについて触れると、あそびそのものよりも、教室を間借りしている状況の厳しさについて、音にも気をつけながら保育をしている物理的な状況が厳しいとのこと。トイレも外部を通して利用しなければならず、給食体制も不十分であり、早く仮設園舎に移りたいが、仮設園舎の計画に多くの問題があるということで、その現場を案内いただき、建築施設内部や外部の環境改善のためのアドバイスを当日行い、その後、図面を製作し、8月20日に送付して、8月22日にその方向で改善していかれるとの確認をいただいている。(詳細は別紙参照: 坂本益城町こども未来課長及び檜木野園長に電話で確認)。

11:00 ~ 12:30 ■益城町あじさい保育園 意見交換 園長室 上益城郡益城町大字安永447-7 096-286-7011 前田園長 佐久間.今井

民間の保育園。第一保育所と同様に、被災が激しい住宅地域に開園している。園庭としての中庭を挟んで、被災した古い幼稚園と、新しく幼保一体化のために整備した保育園からなるが、保育園と園庭は被災なく活動に影響はないとのこと。遊びのアドバイスブックについては、園内では手厚く保育できるが、逆に被災地での家庭へのアドバイスが必要かもしれないとのこと。また、園外保育で使っていた河川沿いの散歩路、川を橋でわたったの田んぼや中央公園までの道行き等が被災の土嚢、その他により使えないため、その園外活動部分を生かした保育活動による心の開放度が減ってくる。その意味で、室内や園庭での身体活動は重要となっている。そのためのアドバイスや環境改善は有効。ボランティアのイベント訪問は園児の活性化には役にたっている。特によかったのは、Jリーグチームの支援で、園庭に芝を植えていただいたこと。これにより、炎天下の高温対策、水遊びの円滑化がうまくできている。

13:30 ~ 19:00 ■益城町生活環境現地踏査 津森応急仮設住宅団地 佐久間.今井
■益城町生活環境現地踏査 赤井応急仮設住宅団地 佐久間.今井
■益城町生活環境現地踏査 飯野小応急仮設住宅団地 佐久間.今井
■益城町生活環境現地踏査 木山応急仮設住宅団地 佐久間.今井
■益城町生活環境現地踏査 馬水応急仮設住宅団地 佐久間.今井
■益城町生活環境現地踏査 広崎応急仮設住宅団地 佐久間.今井

仮設住宅の内、飯野小と馬水については、松本益城町復興課長と熊大円山先生から、団地から道路への出入り口が危険であるため、その環境改善のアドバイスをもとめられたため、後日、具体的なアドバイスを図化して送付している。現在、復興課でその改善方向を検討中。